



防災の授業について教えてくれた湯本先生

馬水北にある広安小学校の校歌です。懐かしく思われる卒業生もいらつしやることでしょう。

さて、同校では年間を通じて防災についての授業が開かれています。去る10月16日には、4年生のクラスで「熊本地震からの復興のまちづくり」と題した町復興整備課の職員による講話が行われました。

防災について深く学ぶ

♪青田を渡るそよ風に
霧の中から虹が立つ
美しき郷広安の
学童われら今日もまた
心をこめて学ぼうよ♪

に前向きなのは、「人様から何かを頼まれた時、期待に応えたいから」だとか。昨年からは同小学校の高学年児童に、自身の戦争体験を元にした「平和について」の話を聞かせています。



熱心に講話に耳を傾ける広安小の4年2組の児童たち

講話では「復旧と復興の違い」、「無電柱化の意味」、「公園と避難広場の違い」など、子どもたちの身近に関わることを題材に取り上げ、クイズ形式の問答を組み込んでいます。子どもたちも元氣よく盛んに声を上げます。中には専門家の回答をする子もいて、理解力の高さに感心します。

「他にも、『広安小学校区自主防災クラブ』の方や崇城大学などの協力による授業も展開しています。例えば、防災倉庫の中身について学んだり、校区の各地域の危険箇所を一日かけてチェックし



「ドリーム益城っ子」の木下さん



講話をきちんとメモにとります
馬水北にある広安小学校

『防災マップ』を作ったりします」と話すのは、4年2組担任の湯本順章先生です。

また同校では月に1度、地域住民の協力によるクラブ活動も盛んです。「茶道や生け花、着物の着付け、ダンス、チョン掛けゴマ、消しゴムはんこ作りなど、地域の方々がボランティアで優しく教えています」と話すのは授業をコーディネートしている町教育委員会の「ドリーム益城っ子」の木下さんです。

地域の人たちも一緒に学校を支える、そんな温かい交流が育まれています。

散歩の終わりに

馬水地区に暮らす皆さんは、鉄砂川の清掃やどんどやなど互いに協力し合いながら交流を育んでいます。

昔からここに暮らす人、町外から移住してきた人と、皆さんが大切にしてきたものは「地域愛」です。そして、楽しみなのが来年のどんどや。どこにも負けなない、恒例の高い高い櫓が御目見えすることでしょう。

今日の出会いに感謝。

